工業簿記・原価計算　Part7　　個別原価計算

ジョイフルスクール 会計部

氏名	

点数	点/100点

各論演習 7-1

問1）

関東工業㈱では、実際個別原価計算により製品の製造原価を算定している。下記に示す当月（6月）の原価資料にもとづき、①製造指図書別原価計算表を完成させるとともに、②仕掛品勘定、製品勘定の記入を行いなさい。

（資料）

1　製品指図書別の直接材料消費量および直接作業時間は、次のとおりであった。

	No.105	No.201	No.202	No.203	合計
直接材料消費量（kg）	100	400	300	350	1,150
直接作業時間（時間）	100	300	250	200	850

2　直接材料の当月実際消費単価は850円/kg、労務費の当月実際消費賃率は700円/時間であった。

3　製造間接費は直接作業時間を基準に、予定配賦率1,200円/時間で配賦している。

4　No.105は5月20日に製造着手したもので、5月中に製造指図書に集計された原価は、直接材料費50,000円、直接労務費40,000円、製造間接費70,000円であった。その他の指図書はすべて当月に製造着手したものである。また、月初において完成済みの製品は無かった。

5　No.105とNo.201は当月中に完成し、得意先に引き渡した。No.202は当月完成済みであるが、引渡しは行われていない。また、No.203は当月末において未完成である。

解1）

①製造指図書別原価計算表（単位：円）

製造指図書別原価計算表（6月）

	No.105	No.201	No.202	No.203	合計
月初仕掛品原価					
直接材料費					
直接労務費					
製造間接費					
合計					
備考					

②諸勘定の記入（単位：円）

仕掛品

前期繰越		製品	
材料		次期繰越	
賃金・手当			
製造間接費			

製品

仕掛品		売上原価	
		次期繰越	

工業簿記・原価計算　Part7　　個別原価計算

ジョイフルスクール 会計部

氏名	

点数	点/100点

各論演習 7-2

問1）

九州工業株式会社の福岡工場では、実際個別原価計算を採用しており、12月の原価計算に関するデータは次のとおりである。下記資料にもとづき、12月の製造指図書別原価計算表を作成するとともに、仕掛品勘定および製品勘定の記入を行いなさい。

（資料）

1.　12月の原価計算に関する諸データ

製造指図書番号	№11151	№11251		№12101	№12211
日付	11/15～11/30	11/25～11/30	12/1～12/20	12/10～12/25	12/21～12/31
直接材料費	50,000円	30,000円	60,000円	45,000円	30,000円
直接作業時間	100時間	70時間	130時間	100時間	20時間
直接労務費	?	?	?	?	?
製造間接費	?	?	?	?	?
合計	?	?	?	?	?
備考	11/15製造着手 11/30完成 12/10販売	11/25製造着手 12/20完成 12/22販売		12/10製造着手 12/25完成 12/31在庫	12/21製造着手 12/31仕掛中

2.　直接工の予定平均賃率は、1時間あたり700円、製造間接費予定配賦率は、直接作業1時間あたり600円である。この予定配賦率は、年間製造間接費予算にもとづいて算定されている。

解1）

製造指図書別原価計算表（12月）

（単位：円）	№11251	№12101	№12211	合計
月初仕掛品原価				
直接材料費				
直接労務費				
製造間接費				
合計				
備考				

仕掛品

前月繰越		製品	
材料		次月繰越	
賃金・手当			
製造間接費			

製品

前月繰越		売上原価	
仕掛品		次月繰越	

工業簿記・原価計算　Part7	個別原価計算

ジョイフルスクール 会計部

氏名	

点数	点/100点

各論演習 7-3

問1）

下記（資料）にもとづき実際個別原価計算を行い、①製造指図書別原価計算表、②原価計算関係諸勘定における所定の場所に記入しなさい。ただし、前月繰越額は解答用紙に印刷されている。

（資料）

1　材料に関する資料

（1）　材料は、毎月予定単価で借記される。なお、当月において材料は、現金仕入が200kg、掛仕入が1,000kgあり、月初有高は50kg（11,000円）であった。

（2）　当月材料消費高

指図書番号	＃10	＃11	＃12	＃13	＃14	＃15	共通材料
材料消費量（kg）	300	300	70	200	50	150	30

（3）　なお、＃10については作業屑が発生した。この作業屑は2,000円で売却できる見込みである。当該売却額は金額が僅少なため、＃10全体から差し引くこととする。

2　賃金・手当に関する資料

（1）　当月直接工の作業時間

指図書番号	＃10	＃11	＃12	＃13	＃14	＃15	間接作業
作業時間（時間）	90	100	30	20	15	32	10

（2）　直接工の予定消費賃率は1,000円/時間である。

（3）　当月の現金支払（277,000円）以外の諸預り金は20,000円である。

（4）　未払賃金・手当はなかった。

（5）　賃率差異は生じなかった。

3　製造間接費に関する資料

（1）　製造間接費の予定配賦率は600円/直接作業時間である。なお、製造間接費予算額には正常仕損費の見積額は設定されていない。

（2）　製造間接費実際発生額は、上記の資料から判明するものを除き、158,000円（未払い）である。

4　その他

（1）　＃14は、＃11の一部が仕損となったために発行された補修指図書である。これは、正常な仕損であり、＃11の製品に特有の加工作業に起因するものであるため、他の製品の原価に影響させないものとする。

（2）　＃15は、＃12の全部が仕損となったために発行された代品製造指図書である。
なお、当該仕損は異常な原因にもとづくものである。また、仕損品評価額はない。

（3）　当月中に＃13を除くすべての指図書は仕掛中である。

（4）　当社は仕損費勘定を使用していない。

解1）

（単位：円）

①製造指図書別原価計算表

項目	＃10	＃11	＃12	＃13	＃14	＃15	合計
前月繰越	44,200	-	-	-	-	-	44,200
直接材料費							
直接労務費							
製造間接費							
小計							
作業屑評価額							
正常仕損費							
異常仕損費							
合計							
備考							

②原価計算関係諸勘定

材料

前月繰越	11,000	仕掛品	
現金		製造間接費	
買掛金		次月繰越	

賃金・手当

諸口		仕掛品	
		製造間接費	

製造間接費

未払金		仕掛品	
材料		配賦差異	
賃金・手当			

仕掛品

前期繰越	44,200	製品	
材料		作業屑	
賃金・手当		損益	
製造間接費		次月繰越	

工業簿記・原価計算　Part7　　個別原価計算

ジョイフルスクール 会計部

氏名	

点数	点/100点

各論演習 7-4

問1）

四国マシナリー㈱では特殊機械の受注生産を行っており、実際部門別個別原価計算を行っている。次の資料にもとづいて設問に答えなさい。

（資料）

1.　当月における指図書別データ

		No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	No.16
月初仕掛品棚卸高		628,000円	-	-	-	-	-
直接材料消費量		200kg	1,500kg	1,200kg	20kg	2,000kg	500kg
直接作業時間	甲製造部門	120時間	1,200時間	1,000時間	50時間	1,500時間	350時間
	乙製造部門	250時間	1,000時間	900時間	-	900時間	180時間
機械運転時間	甲製造部門	220時間	1,000時間	760時間	100時間	950時間	250時間
	乙製造部門	120時間	1,700時間	900時間	-	1,600時間	400時間

2.　当社は、直接材料費は予定消費価格、直接労務費は部門別予定賃率、製造間接費は部門別予定配賦率にて計算している。

①　予定消費価格　　350円/kg

②　予定賃率及び予定配賦率算定のための資料は、次のとおりである。

	賃金・手当 年間予算	製造間接費 年間予算	予定総勤務 時間	予定総就業 時間	正常直接 作業時間	正常機械 運転時間
甲製造部門	38,160,000円	40,704,000円	72,000時間	63,600時間	50,880時間	38,400時間
乙製造部門	25,200,000円	40,320,000円	56,000時間	50,400時間	40,320時間	57,600時間

（注）　製造間接費は甲製造部門については直接作業時間、乙製造部門については機械運転時間を基準に各指図書に配賦する。なお、乙製造部門の製造間接費予算額には仕損費予算が含まれている。また、乙製造部門の製造間接費予算のうち固定費は23,040千円であり、月間予算は年間の12分の1である。

3.　（1）　指図書No.14は、甲製造部門においてNo.11の一部に仕損（正常）が生じたために発行した補修指図書である。

（2）　指図書No.15は、乙製造部門において通常起こりえない作業上の事故によりNo.12の全部が仕損となったために発行した代品製造指図書である。なお、仕損品の利用価値は、指図書に集計された原価の8%と見積られる。

（3）　指図書No.16は、乙製造部門においてNo.13の一部が仕損（正常）となったために発行された代品製造指図書である。なお、仕損品の見積利用価値は40,000円である。

4.　指図書No.13は当月において仕掛中であり、その他はすべて完成した。

5.　当月の製造間接費実際発生額（仕損費は除く）は次のとおりである。

甲製造部門	3,400,000円
乙製造部門	2,300,000円

（設問）

（1）製造指図書別原価計算表を完成させるとともに、（2）原価計算関係諸勘定の記入を行い、（3）製造間接費-乙製造部門の差異分析を行いなさい。なお、（1）～（3）において、全ての空欄に金額が入るとは限らない。その場合は横棒″ ― ″を記入しなさい。

解1）

（単位：円）

（1）製造指図書別原価計算表

項目	No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	No.16
前月繰越						
直接材料費						
直接労務費						
甲製造部門						
乙製造部門						
製造間接費						
甲製造部門						
乙製造部門						
小計						
仕損品評価額						
仕損費						
合計						
備考						

（2）原価計算関係諸勘定

製造間接費－甲製造部門

諸口	3,400,000	仕掛品	
配賦差異		配賦差異	

製造間接費－乙製造部門

諸口	2,300,000	仕掛品	
仕掛品		配賦差異	
配賦差異			

仕掛品

前期繰越		製品	
材料		仕損品	
賃金・手当		製造間接費-乙製造部門	
製造間接費-甲製造部門		損益	
製造間接費-乙製造部門		次月繰越	

（3）製造間接費－乙製造部門の差異分析

予算差異		円	［借 ・ 貸］
操業度差異		円	［借 ・ 貸］
総差異		円	［借 ・ 貸］

（注）上記［借・貸］は該当する方を○で囲むこと。